

VMware vSphere+

オンプレミスのワークロードにクラウドのメリットを提供

概要

課題：

IT 部門がクラウドと SaaS の採用を進めている一方で、多数の企業が多くのワークロードをオンプレミスで実行することを選択しています。その結果、次の課題が生まれました。

- クラウドのメリットをオンプレミスのワークロードで利用できない
- インフラストラクチャのサイロ化と複数の運用モデルの混在により組織が分断され、定常的な可視化、管理、メンテナンスが困難で時間のかかる作業になっている
- 開発者と IT 部門がアプリケーション開発ではなくインフラストラクチャの運用に多くの時間を割かなければならなくなり、アプリケーションの市場投入までの期間が長くなっている

ソリューション：

VMware vSphere+™ は、マルチクラウド ワークロード対応のプラットフォームであり、オンプレミスのワークロードにクラウドのメリットをもたらします。vSphere+ には、業界をリードする仮想化テクノロジー、エンタープライズ対応の Kubernetes 環境、価値の高いクラウドサービスが組み合わせられており、サブスクリプションとして利用可能な SaaS ベースのインフラストラクチャの構築を可能にします。vSphere+ を利用することで、IT 管理者と開発者は従来型のアプリケーションと次世代型のアプリケーションの構築、実行、管理、保護、セキュリティ確保を容易に行うことができます。

VMware vSphere+™ は、マルチクラウド ワークロード対応のプラットフォームであり、高価値のクラウドサービスを提供します。これにより IT 管理者と開発者は、従来型のアプリケーションと次世代型のアプリケーションの両方を対象に、管理の一元化、生産性の向上、イノベーションの促進を実現できるようになります。

組織は VMware vSphere+™ で、次のことを実現できます。

- 管理者向けサービスを使用して、生産性を飛躍的に向上できます。管理者は、Cloud Console を使用して、グローバル インベントリ、アラート ステータス、セキュリティ ポスチャを一元的に管理して監視することができます。また、任意の vSphere クラスタに仮想マシンをプロビジョニングすることができるため、迅速にニーズに対応することができます。vCenter のライフサイクル管理が全体的に簡素化されたため、構成エラーを容易に検知して修正することができます。
- 既存の vSphere 環境をインプレースで強化しながら、クラウドのすべてのメリットが利用可能になるクラウドとの統合により、オンプレミスのインフラストラクチャを変革することができます。組織は、ディザスタ リカバリ、ランサムウェア対策、クラウド バースト、キャパシティプランニングなどを加速するアドオン サービス（開発中）を活用して、既存の投資の ROI を向上させると同時に、運用コストベースで利用できるという柔軟性を手に入れることができます。
- 既存の仮想インフラストラクチャをエンタープライズクラスの Kubernetes プラットフォームへと変換する開発者向けサービスにより、イノベーションを加速できます。これにより、ログ収集、レジストリ、監視、Ingress などの統合されたサービスが利用可能になり、プラットフォーム管理が効率化されます。また、可観測性、トラブルシューティング、レジリエンスという点から複数の Kubernetes クラスタを管理できるようになります（開発中）。

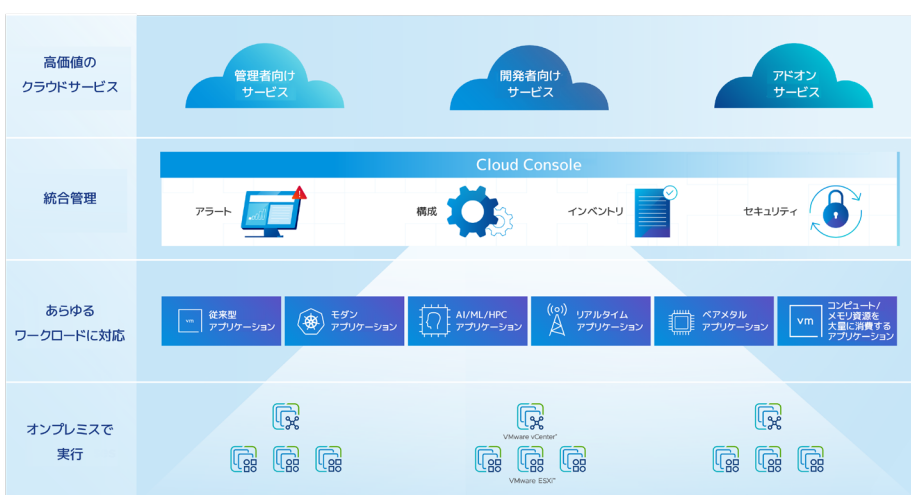


図 1：オンプレミスのワークロードにクラウドのメリットをもたらす vSphere+

詳細情報

vSphere+ の詳細情報：

<https://www.vmware.com/jp/products/vsphere.html>

vSphere+ を体験

ハンズオン ラボを試す：

<https://www.vmware.com/jp/try-vmware.html>

主な機能

柔軟性の高いサブスクリプション

- vSphere+ はサブスクリプションとして提供されるため、CapEx ベースから OpEx ベースの消費モデルに転換できることで予算を管理しやすくなります。初期コストも抑えることができます。単一の SKU に、すべてのコンポーネント（vCenter インスタンス、ESXi ホスト）とサポートが含まれます。
- vCenter ライセンスを別途購入することも、エンタイトルメントのトラッキングも不要になります。追加のコストなく、必要数の vCenter インスタンスを展開できます。ライセンスをいくつも管理する必要はありません。
- キーレス エンタイトルメント、計測、課金により、ライセンス キーの記録、トラッキング、分割、入力の手間が発生しません。

管理者向けサービス

- **Cloud Console**：一元化されたクラウド コンソール（VMware Cloud Console）に、すべての vSphere 環境の管理が統合されます。
- **グローバル インベントリ サービス**：vSphere 環境全体にわたるリソースの使用状況を即座に把握できるように、vSphere のリソースとキャパシティのインベントリが視覚化されます。
- **イベント ビュー サービス**：イベントとアラートが 1 つのビューにまとめて表示されるため、vSphere 環境全体にわたって、注意が必要な領域を即座に見つけてアクションを行うことができます。
- **セキュリティ健全性チェック サービス**：vSphere インフラストラクチャ全体のセキュリティポスチャを評価して、セキュリティ上の脆弱性やリスクを特定できます。
- **仮想マシンのプロビジョニング サービス**：VMware Cloud Console から、任意の管理対象クラスターに仮想マシンを迅速にプロビジョニングすることができます。
- **ライフサイクル管理サービス**：vCenter インスタンスのライフサイクル管理が簡素化されます。ワンクリックでアップデートを実行してメンテナンス ウィンドウを短縮できるため、これまでよりも容易に、即座にアップデートをスケジュール設定できます。したがって、新機能を利用できるようになるまでの時間も短縮され、セキュリティの脆弱性にすぐに対処できます。問題が発生した場合でも、アップデートを容易にロールバックできます。
- **構成管理サービス**：vSphere 環境全体にわたって vCenter の構成を標準化し、カスケードさせることで、vCenter の構成エラーを迅速に検知して修正できます。

開発者向けサービス

- **Tanzu Kubernetes Grid™ サービス**：開発者は、一貫性、コンプライアンス、適合性を備えた Kubernetes クラスターを利用できます。
- **ストレージ サービス**：開発者は、コンテナ、Kubernetes、仮想マシンで使用するパーシステント ディスクを管理できます。また、コンテナ化されたワークロード用に、既存のブロック ストレージやファイル ストレージのインフラストラクチャを展開できます。
- **ネットワーク サービス**：開発者は、仮想ルーター、ロードバランサー、ファイアウォール ルールを管理できます。vSphere Distributed Switch (VDS) の統合インターフェイスを使用して既存のネットワーク インフラストラクチャを活用し、仮想マシンと Kubernetes のワークロードのスイッチ アクセスを構成、監視、管理することができます。
- **Tanzu 統合サービス**：ログ収集、監視、ネットワーク、ストレージ サービスなど、ローカルおよびクラスター内のプラットフォーム サービスの展開と管理を効率化することで、本番環境対応の Kubernetes 環境を容易に構成して維持できます。
- **Tanzu Mission Control Essentials**：開発者は、複数の Kubernetes (TKG) クラスターを可観測性、トラブルシューティング、レジリエンスの点から管理できます¹。

¹ Tanzu Mission Control Essentials は vSphere+ のコンポーネントであり、2023 年度第 3 四半期にリリースを予定しています。